

日本の大学の非専攻韓国語学習者の韓国に対する関心度¹

朴 鍾厚

A Study of Interests in Fields Related to Korea for Non-Majored Korean Language Learners in Japanese Universities

PARK Jonghoo

The aim of this study is to investigate interests in fields related to Korea for Korean language learners who are not majoring in Korean in Japanese universities. We focus on how gender and experiences related to Korea affects the degree of interest of learners. In addition, we compare the results of the present study and the past study in 2014 to examine if there were any longitudinal differences.

We conducted a survey with 552 students in twelve different regions in Japan. They all attend non-major Korean classes. The results show that Korean learners have the highest interest in Korean culture regardless of gender and experience related to Korea. The comparison of 2014's and 2019's studies shows that cultural interests have increased but interests in politics or economy or history decreased over the last five years.

The findings of this study will contribute to the recalibration of the purpose of Korean language education as a non-majored subject in Japanese universities.

Key word : Korean language education in Japanese universities,
non-major Korean language learners in Japanese universities,
interests of Korean learners in Japan, variables in Korean experience

1 本稿は、2019年9月5日に東京大学駒場キャンパスで開催された第6回朝鮮語教育学会・朝鮮語研究会合同大会において「日本の大学における非専攻韓国語学習者の関心分野に関する調査分析」というタイトルで発表したものを修正・補完したものである。

1. はじめに

本研究は、現在日本の大学において非専攻科目としての韓国語の授業²を受講している学習者（以下本稿では「非専攻韓国語学習者」とする）の、韓国に対する関心分野について分析することを目的とする。これは日本の韓国語教育の現状の把握とこれからの方向性を決めるための基礎資料となるだろう。

最近是需要者中心の教育が注目を浴びている。特に、相互コミュニケーションが重視されるべき語学授業においては、予め学習者の関心分野について把握しておくことは授業の運営や方向性の決定に当たって重要なことである。しかし、今までの日本における韓国語教育の研究は日本の韓国語教育の一般的な実態調査が主流で、学習者の関心分野やその関心度などに着目した研究はあまり行われてこなかった。

そのため、本稿では日本の大学における非専攻韓国語学習者を対象としたアンケート調査³から、韓国の様々な分野に対する関心度についての結果のみを取り出し、分析する。また、2014年にほぼ同じ項目で実施されたアンケート調査⁴の結果との比較を通じ、この5年間の学習者の韓国に対する関心の変化も考察してみたい。

本稿の全体の構成は、次のようになる。まず、第2章では先行研究を整理し今回のアンケート調査の概要を述べる。第3章では今回の調査結果を分析するが、より細密な分析のため性別や韓国に関わる経験の有無を学習者因子として取り入れ、分析する。第4章では、2014年の調査結果との比較を通じ、その変化を考察する。

2 ここでの「非専攻科目としての韓国語の授業」とは、必修か選択かに関わらず、専攻科目でなく一種の教養科目として週に1～2回設けられている授業をいう。本稿は、非専攻科目としての韓国語の授業とは何かについて議論することを目的としているわけではないため、これについての詳しい議論は今後の課題としたい。

3 今回実際行われたアンケート調査は、(1) 学習者の受講動機、(2) 韓国に関する関心分野、(3) 向上させたい言語能力という三つの設問項目で成り立っているが、本稿ではそのうち(2)についての分析結果のみを研究対象とする。

4 この2014年度の調査の概要については、박종후・오대환 (2015: 196-198) を参照されたい。

2. 先行研究及び調査概要

2.1 先行研究

日本の韓国語教育は長い歴史を持っており、現在も他国に比べ質・量共に充実している。そのため、日本の国内外から日本の韓国語教育の実態を把握しようとする調査や研究が、これまで頻繁に行われてきた。2000年以降の代表的な研究としては、오고시 나오키 (2003、2005)、김수정 (2004)、강영숙 (2014)、박종후 (2014)、박종후・오대환 (2014)、박종후・오대환 (2015a, b)⁵、朴珍希 (2016)、이순연 (2018) などが挙げられる。このうち学習者たちの韓国に対する関心分野が取り上げられている研究は、오고시 나오키 (2003、2005) と 박종후 (2014) である。

오고시 나오키 (2003、2005) は、1998年と2002年に東京大学の韓国語履修者を対象にアンケート調査を実施し、その結果から日本の大学における韓国語学習者の受講動機や関心分野などを分析したものである。この調査結果から学習者の関心度の高い分野を並べてみると、1998年には「文化」(24.2%)「歴史」(21.1%)「言語」(13.7%)「政治」(12.1%)「経済」(10.5%)「文学」(3.7%)の順で、2002年には「文化」(42.6%)「言語」(36.1%)「歴史」(26.1%)「経済」(15.7%)「政治」(14.5%)「文学」(4.8%)の順であった⁶。2002年の方が1998年に比べ全体的な関心度は高くなり、その順位にも若干変化が見られる。特に、「文化」(24.2%→42.2%)と「言語」(13.7%→36.1%)に対する関心度は大きく数字を伸ばしたことが分かる。これは2002年日韓ワールドカップの共同開催や韓国ポップカルチャーの紹介などが影響していると考えられる(生越 2003: 29)。

一方、박종후 (2014) では日本の韓国語教育の現状を把握するため、2013年に日本の5地域8校の大学の韓国語受講者481名を対象にアンケート調査を実施した。ここでは様々な項目の調査が行われたが、そのうち韓国に対する関心分野についての調査結果だけを示すと、「映画やドラマ」(58.2%)「K-POP」(54.1%)「言語」(27.0%)「伝統文化」(15.4%)「歴史」(10.2%)の順であっ

5 本研究は、「日本における韓国語教育の現在」を記録するための調査の一環で、2013年に第1次調査、2014年に第2次調査が行われ、今回が第3次調査に当たる。2013年度の調査結果は박종후 (2014) と 박종후・오대환 (2014) で、2014年度の調査結果は박종후・오대환 (2015a, b) で一部発表したことがある。

6 一つの設問に対する複数応答を可能としているため、応答の合計は100%を超えることもあり得る。

た⁷。いわば「韓流ブーム」が本格化する前の調査であった生越（2003）では単に「文化」という項目にまとめられていたため、これが「伝統文化」を指すのか、或いはいわゆる「韓流」等の新しい「ポップカルチャー」を指すのが明確ではなかった。박종후（2014）ではこれを「映画やドラマ」「K-POP」「伝統文化」と細分化した結果、現在日本の大学の韓国語学習者は「伝統文化」よりも新しい「ポップカルチャー」に興味を持っていることが明らかとなった。

しかし、両研究とも박종후・오대환（2015b：195-196）に指摘されているように、①調査地域や調査対象が限られている、②調査項目の選定や分析方法に問題があり、分析結果の一般化が難しい、③研究者個人の研究の必要に応じた項目構成になっており、他の研究者が持続的にその結果を追跡するための措置がない、という問題点が露呈されている。そこで、本研究ではこれらの問題点を改善するために2014年度の調査と今回の2019年度の調査では、①対象地域の拡大、②調査項目の多様化と学習者要因による分析、③リッカート尺度の導入、などを試みている。

2.2 調査概要

本研究では、2019年4月から6月まで日本の12地域の4年制大学で非専攻科目として韓国語の授業を受講している1年生を対象にアンケート調査を実施した。実際に回収された回答は580枚であったが、一見して不誠実に過ぎる28枚は除き、552枚のみを分析対象とした。今回の調査の概要をまとめてみると、以下のようになる。

（1）調査概要

- ①調査テーマ：日本の大学における非専攻韓国語学習者の受講動機⁸、韓国に対する関心分野、向上させたい言語能力（但し、本稿では韓国に対する関心分野及び関心度のみ分析対象とする。）
- ②調査対象：日本の4年制大学の非専攻科目としての韓国語授業の受講者（1年生）

7 この研究でも、生越（2003）と同様に一つの設問に対する複数応答を可能としているため、応答の合計は100%を超えることもあり得るのである。

8 今回のアンケート調査の項目のうち、受講動機については박종후・정선영（2019）を参照されたい。

- ③調査期間：2019年4月～6月（約3か月間）
- ④調査地域：日本の12地域（東京都、大阪府、京都府、埼玉県、兵庫県、宮城県、石川県、愛知県、広島県、福岡県、熊本県、北海道）の各1校
- ⑤標本数：552個（男性：221名（40.0%）、女性：331名（60.0%））

今回調査対象となった大学の所在地と標本数及びその比率を都道府県別に詳しく示すと、以下の表1のようになる。

表1. 調査標本の地域別分布

地域	標本数	比率
東京都	52	9.4%
大阪府	43	7.8%
京都府	56	10.1%
埼玉県	17	3.1%
兵庫県	46	8.3%
宮城県	25	4.5%
石川県	49	8.9%
愛知県	46	8.3%
広島県	56	10.1%
福岡県	53	9.6%
熊本県	55	10.0%
北海道	54	9.8%
計	552	100.0%

上記の表1からも分かるように、日本全国の多様な地域からバランスよく調査できたことは意義があると思われる。従来の日本における韓国語教育に関する研究の中でこれほどの広範囲のアンケート調査が実施されたことはない。ただ、沖縄と四国は含まれていないことや、近畿地方の割合が若干高いことは、今後補完されるべき点と言えるだろう。

一方、本研究ではより詳細な分析をするため、学習者要因として韓国関連経験の有無を導入している。その具体的な因子としては、①韓国訪問経験、②韓国人との交流経験、③韓国語学習経験が用いられた。これは以前の박종호・오

대환 (2015) でも使われたものであり、有効な学習者要因であることが明らかとなったものでもある。この割合などについてまとめてみると、以下の表2のようになる。

表2. 韓国関連経験の有無

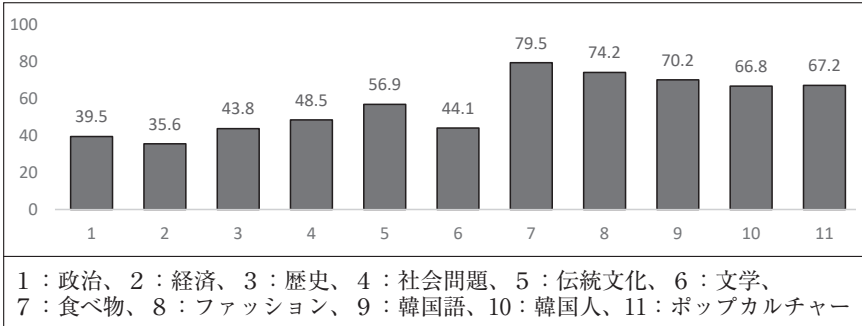
		応答者数 (名)	比率 (%)
韓国訪問経験	有	98	17.8%
	無	454	82.2%
	計	552	100.0%
韓国人との交流経験	有	195	35.3%
	無	357	64.7%
	計	552	100.0%
韓国語学習経験	有	72	13.0%
	無	480	87.0%
	計	552	100.0%

全体的に韓国関連経験のない受講者（以下本稿では「無経験者」とする）が経験のある受講者（以下本稿では「有経験者」とする）を上回っている。たとえば「韓国訪問経験」の場合は、無経験者は454名の82.2%に比べ有経験者は98名の17.8%であり、「韓国人との交流経験」の場合は、無経験者は357名の64.7%に比べ有経験者は195名の35.3%であった。さらに、「韓国語学習経験」の場合は無経験者は480名の87.0%であり、有経験者は72名の13.0%に過ぎなかった。全体的に韓国関連経験のない受講者が多いことが分かる。これは2014年度の調査の折からあまり変わってはいないが、若干有経験者の方が少なくなっている。

3. 調査結果と分析（2019年）

3.1 全体結果

図1. 韓国の各分野に対する関心度（2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

上記の図1は、韓国の各分野に対する関心度についての2019年度の調査結果を表したものである。関心度⁹の高い順で並べてみると、次のようになる。

表3. 韓国に対する関心分野（2019年度調査、関心度の高い順）

関心のある分野 (50点以上)	食べ物 (79.5点) > ファッション (74.2点) > 韓国語 (70.2点) > ポップカルチャー (67.2点) > 韓国人 (66.8点) > 伝統文化 (56.9点)
関心のない分野 (50点以上)	社会問題 (48.5点) > 文学 (44.1点) > 歴史 (43.8点) > 政治 (39.5点) > 経済 (35.6点)

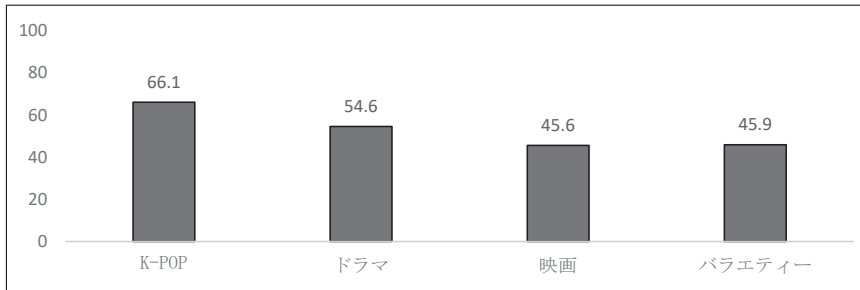
今回の結果の中で最も関心度の高い分野は「食べ物」(79.5点)であったが、これは2014年度の調査結果と変わっていない。その次は、「ファッション」(74.2点)「韓国語」(70.2点)「ポップカルチャー」(67.2点)「韓国人」(66.8点)「伝統文化」(56.9点)の順で、これらが学習者の興味を持っている分野(50

9 実際の調査ではリッカート尺度が用いられた。各設問項目ごとに5段階の尺度（1：全く無関心、2：やや無関心、3：普通、4：やや関心あり、5：とても関心あり）が設けられたが、本稿では比較分析の利便性を考慮しその結果を100点満点に換算した数値で提示する（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）。

点以上)であった。その他の「社会問題」(48.5点)「文学」(44.1点)「歴史」(43.8点)「政治」(39.5点)「経済」(35.6点)は50点以下で、学習者はこれらの分野についてはあまり興味がないことが分かった。

ここで注目される点は、最近脚光を浴びている「K-POP」を含む韓国の「ポップカルチャー」に対する関心度である。調査を行う前までは、韓国の「ポップカルチャー」が最も関心度の高い分野ではないかと予想されていたが、実際はそうでもなかった。「ポップカルチャー」の関心度は67.2点で、第4位である。また、以下の図2からも分かるように、「K-POP」の関心度も66.1点に過ぎなかった。もちろん50点以上であるため興味がないとは言えないが、そこまで突出した数字であるとも言えないだろう。

図2. 韓国のポップカルチャーに対する関心分野 (2019年度)



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

上記の図1と2の全体結果から見ると、当然ながら非専攻科目としての韓国語のクラスの中にはK-POPなどの韓国のポップカルチャーが好きで受講している学習者ばかりがいるわけではないことが分かる。K-POPに興味のある学習者は、入学前から独学でハングルが読めたり簡単な会話ができたりすること多いため、入門や初級の段階では目立つ場合が多い。そのため、教師は皆がK-POPなどの韓国のポップカルチャーに強い興味を持っていると勘違いしがちである。しかし、今回の調査結果からみると、そうでもないことが分かった。具体的な数値においても「K-POP」だけが66.1点でやや関心のある方で、いわば「第1次韓流ブーム」の主演であった「ドラマ」(54.6点)も「普通」の50点を若干上回る程度であった。さらに、「映画」や「バラエティー番組」については50点以下の関心のない方である。実際の韓国語教育現場の教員は、こ

のような結果を念頭に置く必要があると思われる。

3.2 性別による関心度の差

韓国の各分野に対する関心度には男女差があると予想されるが、実際はどうだろう。3.1節の図1と2の結果を性別に比べてみると、以下の表4と図3のようになる。

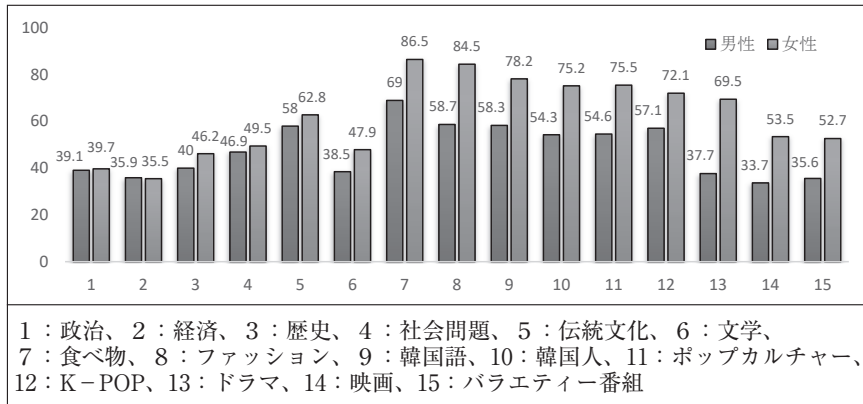
表4. 韓国に対する関心分野の男女差と有意確率（2019年）

	関心分野	全体	男性	女性	男女差	有意確率 ¹⁰
1	政治	39.5	39.1	39.7	0.6	0.814
2	経済	35.6	35.9	35.5	0.4	0.862
3	歴史	43.8	40.0	46.2	6.2	0.014
4	社会問題	48.5	46.9	49.5	2.6	0.308
5	伝統文化	56.9	58.0	62.8	4.8	0.000
6	文学	44.1	38.5	47.9	9.4	0.000
7	食べ物	79.5	69.0	86.5	17.5	0.000
8	ファッション	74.2	58.7	84.5	25.8	0.000
9	韓国語	70.2	58.3	78.2	19.9	0.000
10	韓国人	66.8	54.3	75.2	20.9	0.000
11	ポップカルチャー	67.2	54.6	75.5	20.9	0.000
12	K-POP	66.1	57.1	72.1	15.0	0.000
13	ドラマ	54.6	37.7	69.5	31.8	0.000
14	映画	45.6	33.7	53.5	19.8	0.000
15	バラエティー番組	45.9	35.6	52.7	17.1	0.000

（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

10 SPSS 20.0 for Windowsを用いて計算した有意確率である。今回の調査分析の有意水準 α は0.05である。つまり、有意確率のp値が0.05より低い場合（ $p < 0.05$ ）が統計的有意差のある結果と言える。本稿では、表の中の有意確率が統計的有意である場合は網掛けで表示する。

図3. 韓国に対する関心分野の男女差 (2019年)



(0点: 全く無関心、25点: やや無関心、50点: 普通、75点: やや関心あり、100点: とても関心あり)

上記の表4と図3は、性別による各分野の関心度の差を表したものである。この結果を見ると、女性受講者の方が男性より全体的な関心度が高いことが分かる。具体的に見ると、「政治」や「経済」や「社会問題」においてはあまり男女差はなく統計的にも有意ではなかったが、他の分野は全て女性の関心度の方が男性より高く、その差も統計的に有意であった。一方、この中で性別による関心度の差が最も大きい分野は、「ドラマ」であった。韓国の「ドラマ」に対する女性受講者の関心度は69.5点なのに比べ、男性受講者の方は37.7点であり、その差は31.8点もあった。その他に男女差の大きい分野を並べてみると、「ファッション」(25.8点)「韓国人」(20.9点)「ポップカルチャー」(20.9点)「韓国語」(19.9点)「映画」(19.8点)「食べ物」(17.5点)「バラエティー番組」(17.1点)などの順である。大抵は文化的な面に関して性別による関心度に統計的有意差が見られる。

さて、性別によって関心分野はどう分かれるか、より具体的に分析してみよう。

表5. 性別による関心分野の違い（2019年度、関心度の高い順）

男性 受講者	関心のある分野 (50点以上)	食べ物 (69.0点) > ファッション (58.7点) > 韓国語 (58.3点) > 伝統文化 (58.0点) > K-POP (57.1点) > ポップカルチャー (54.6点) > 韓国人 (54.3点)
	関心のない分野 (50点以上)	社会問題 (46.9点) > 歴史 (40.0点) > 政治 (39.1点) > 文学 (38.5点) > ドラマ (37.7点) > 経済 (35.9点) > バラエティー番組 (35.6点) > 映画 (33.7点)
女性 受講者	関心のある分野 (50点以上)	食べ物 (86.5点) > ファッション (84.5点) > 韓国語 (78.2点) > ポップカルチャー (75.5点) > 韓国人 (75.2点) > K-POP (72.1点) > ドラマ (69.5点) > 伝統文化 (62.8点) > 映画 (53.5点) > バラエティー番組 (52.7点)
	関心のない分野 (50点以上)	社会問題 (49.5点) > 文学 (47.9点) > 歴史 (46.2点) > 政治 (39.7点) > 経済 (35.5点)

上記の表5は、男女別に50点を基準として関心の有無をまとめたものである。男女とも最も関心度の高い分野は「食べ物」（男：69.0点、女：86.5点）であったが、その次は男性受講者の場合は「ファッション」（58.7点）「韓国語」（58.3点）「伝統文化」（58.0点）「K-POP」（57.1点）「ポップカルチャー」（54.6点）「韓国人」（54.3点）の順で、女性受講者の場合は「ファッション」（84.5点）「韓国語」（78.2点）「ポップカルチャー」（75.5点）「韓国人」（75.2点）「K-POP」（72.1点）「ドラマ」（69.5点）「伝統文化」（62.8点）「映画」（53.5点）「バラエティー番組」（52.7点）の順であった。最も関心度の高い分野の「食べ物」の数値が男性は69.0点であったが、この数値は女性の上位7番目の「ドラマ」69.5点とほぼ同じである。さらに、「普通」50点以上の関心ありの分野の数においても、男性の方は7個であるが、女性の方は10個もあった。これらの結果からも、全体の関心度において男性の方が低いことや、女性の方が男性より韓国の様々な分野に興味を持っていることが分かった。ちなみに、最も関心のない分野は、男性は「映画」で、女性は「経済」であった。

一方、男女共に興味のある分野は、「伝統文化」（男：58.0点、女：62.8点）「食べ物」（男：69.0点、女：86.5点）「ファッション」（男：58.7点、女：84.5点）「韓国語」（男：58.3点、女：78.2点）「韓国人」（男：54.3点、女：75.2点）「ポップカルチャー」（男：54.6点、女：75.5点）「K-POP」（男：57.1点、女：72.1点）であり、男女共に興味のない分野は、「政治」（男：39.1点、女：39.7点）「経済」（男：35.9点、女：35.5点）「歴史」（男：40.0点、女：46.2点）「社会問題」（男：46.9点、女：49.5点）文学（男：38.5点、女：47.9点）であった。男

女共に韓国の文化的或は生活的な分野については興味を持っており、学問的或は専門的なものについては興味を持っていないことが分かる。

また、女性受講者は興味を持っているが、男性受講者は興味を持っていない分野は、「ドラマ」（男：37.7点、女：69.5点）「映画」（男：33.7点、女：53.5点）「バラエティー番組」（男：35.6点、女：52.7点）であった。この結果からは、女性の場合は「K-POP」だけではなく「ドラマ」「映画」「バラエティー番組」にも興味を持っているが、男性の場合は「K-POP」以外は興味を持っていないことが分かる。逆に、女性受講者は興味を持っていないが、男性は興味を持っている分野が調査結果にはなかった。

3.3 韓国関連経験の有無による関心度の差

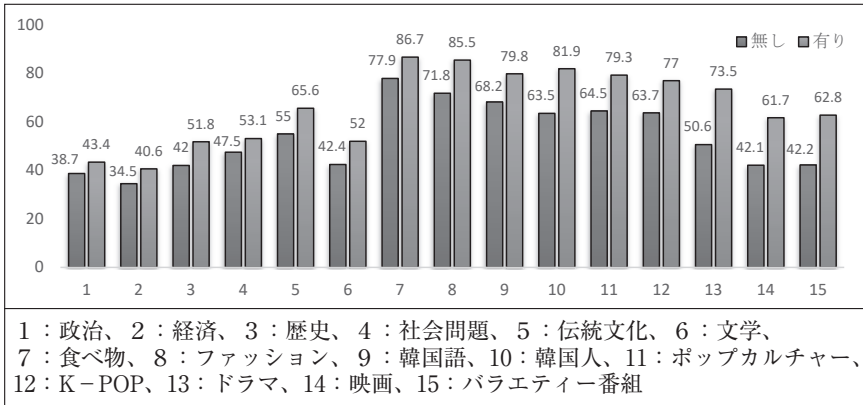
本研究の分析のために設けられている学習者要因は、韓国に関連する経験の有無である。具体的には、①韓国訪問の経験、②韓国人と交流経験、③韓国語の学習経験の三つである。まず、韓国訪問経験の有無による分析結果から考察してみよう。

表6. 韓国訪問経験の有無による関心度の差と有意確率（2019年、有意水準 $\alpha=0.05$ ）

	関心分野	全体	無し	有り	差	有意確率
1	政治	39.5	38.7	43.4	4.7	0.141
2	経済	35.6	34.5	40.6	6.1	0.043
3	歴史	43.8	42.0	51.8	9.8	0.002
4	社会問題	48.5	47.5	53.1	5.6	0.078
5	伝統文化	56.9	55.0	65.6	10.6	0.001
6	文学	44.1	42.4	52.0	9.6	0.002
7	食べ物	79.5	77.9	86.7	8.8	0.001
8	ファッション	74.2	71.8	85.5	13.7	0.000
9	韓国語	70.2	68.2	79.8	11.6	0.000
10	韓国人	66.8	63.5	81.9	18.4	0.000
11	ポップカルチャー	67.2	64.5	79.3	14.8	0.000
12	K-POP	66.1	63.7	77.0	13.3	0.000
13	ドラマ	54.6	50.6	73.5	22.9	0.000
14	映画	45.6	42.1	61.7	19.6	0.000
15	バラエティー番組	45.9	42.2	62.8	20.6	0.000

（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

図4. 韓国訪問経験の有無による関心分野の差 (2019年)



(0点: 全く無関心、25点: やや無関心、50点: 普通、75点: やや関心あり、100点: とても関心あり)

上記の表6と図4は、韓国訪問経験の有無による韓国の各分野の関心度の差を表したものである。韓国訪問の有経験者の方が韓国訪問の無経験者より全体的な関心度が高いことが分かる。統計的有意差のない「政治」と「社会問題」を除き、他の分野は全部韓国訪問の有経験者の方が高い関心度を見せ、統計的にも有意であった。一方、訪問経験の有無による関心度の差の最も大きい分野は「ドラマ」(有経験者: 73.5点、無経験者: 50.6点、差: 22.9点)であった。これは3.2節の性別による差の場合と同じである。その次に差の大きい分野は、「バラエティー番組」(20.6点)「映画」(19.6点)「韓国人」(18.4点)「ポップカルチャー」(14.8点)「ファッション」(13.7点)「K-POP」(13.3点)「韓国語」(11.6点)などの順であった。性別による差の場合と異なり、大衆文化に対する全般的な関心度の差が大きかった。

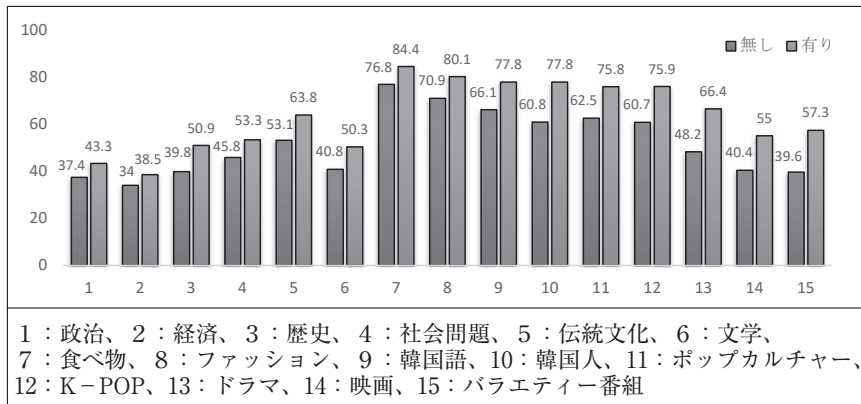
「普通」の50点を基準として韓国訪問経験の有無によって関心と無関心に分かれる分野は、「歴史」(有: 51.8点、無: 42.0点)「文学」(有: 52.0点、無: 42.4点)「映画」(有: 61.7点、無: 42.1点)「バラエティー番組」(有: 62.8点、無: 42.2点)であった。

表7. 韓国人との交流経験の有無による関心分野の差と有意確率 (2019年、有意水準 $\alpha=0.05$)

	関心分野	全体	無し	有り	差	有意確率
1	政治	39.5	37.4	43.3	5.9	0.020
2	経済	35.6	34.0	38.5	4.5	0.069
3	歴史	43.8	39.8	50.9	11.1	0.000
4	社会問題	48.5	45.8	53.3	7.5	0.003
5	伝統文化	56.9	53.1	63.8	10.7	0.000
6	文学	44.1	40.8	50.3	9.5	0.000
7	食べ物	79.5	76.8	84.4	7.6	0.000
8	ファッション	74.2	70.9	80.1	9.2	0.000
9	韓国語	70.2	66.1	77.8	11.7	0.000
10	韓国人	66.8	60.8	77.8	17.0	0.000
11	ポップカルチャー	67.2	62.5	75.8	13.3	0.000
12	K-POP	66.1	60.7	75.9	15.2	0.000
13	ドラマ	54.6	48.2	66.4	18.2	0.000
14	映画	45.6	40.4	55.0	14.6	0.000
15	バラエティー番組	45.9	39.6	57.3	17.7	0.000

(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

図5. 韓国人との交流経験の有無による関心分野の差 (2019年)



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

上記の表7と図5は、韓国人との交流経験の有無による各分野の関心度の差を表したものである。韓国人との交流の有経験者の方が韓国人との交流の無経験者よりも各分野の関心度が高かった。

験者より全体的な関心度が高いことが分かる。「経済」だけは統計的な有意差がなく、他の分野はすべて韓国人との交流のある方が関心度が高く、統計的にも有意であった。

韓国人との交流経験の有無による関心度の差の最も大きい分野は、この場合も「ドラマ」（有経験者：66.4点、無経験者：48.2点、差：18.2点）であった。これは性別や韓国訪問経験の有無による差の場合と同様である。その次に差の大きい分野は、「バラエティー番組」（17.7点）「韓国人」（17.0点）「K-POP」（15.2点）「映画」（14.6点）「ポップカルチャー」（13.3点）「韓国語」（11.7点）「歴史」（11.1点）「伝統文化」（10.7点）などの順であった。

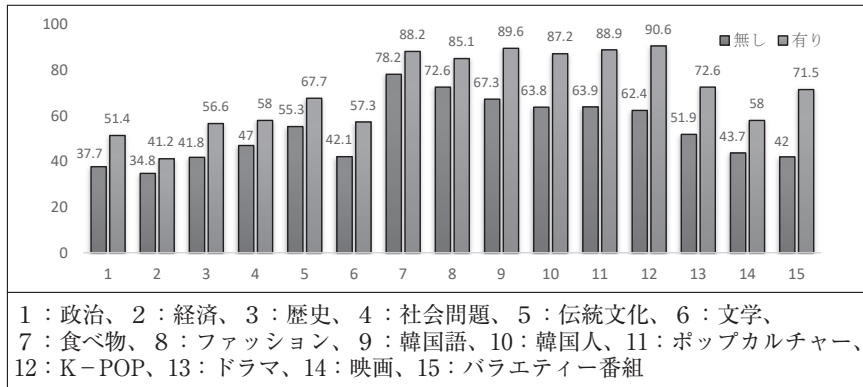
「普通」の50点を基準として韓国人との交流経験の有無によって関心ありと関心なしに分かれる分野は、「歴史」（有：50.9点、無：39.8点）「社会問題」（有：53.3点、無：45.8点）「文学」（有：50.3点、無：40.8点）「映画」（有：55.0点、無：40.4点）「バラエティー番組」（有：57.3点、無：39.6点）であった。韓国訪問経験の有無による差の場合と比べると、「社会問題」があることが異なる点である。

表8. 韓国語学習経験の有無による関心分野の差と有意確率（2019年、有意水準 $\alpha=0.05$ ）

	関心分野	全体	無し	有り	差	有意確率
1	政治	39.5	37.7	51.4	13.7	0.000
2	経済	35.6	34.8	41.2	6.4	0.059
3	歴史	43.8	41.8	56.6	14.8	0.000
4	社会問題	48.5	47.0	58.0	11.0	0.002
5	伝統文化	56.9	55.3	67.7	12.4	0.001
6	文学	44.1	42.1	57.3	15.2	0.000
7	食べ物	79.5	78.2	88.2	10.0	0.001
8	ファッション	74.2	72.6	85.1	12.5	0.001
9	韓国語	70.2	67.3	89.6	22.3	0.000
10	韓国人	66.8	63.8	87.2	23.4	0.000
11	ポップカルチャー	67.2	63.9	88.9	25.0	0.000
12	K-POP	66.1	62.4	90.6	28.2	0.000
13	ドラマ	54.6	51.9	72.6	20.7	0.000
14	映画	45.6	43.7	58.0	14.3	0.001
15	バラエティー番組	45.9	42.0	71.5	29.5	0.000

（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

図6. 韓国語学習経験の有無による関心分野の差（2019年）



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

上記の表8と図6は、韓国語学習経験の有無による各分野の関心度の差を表したものである。この場合も他の要因による分析の場合と同様で、韓国語学習の有経験者の方が韓国語学習の無経験者より全体的な関心度が高いことが分かる。以前の表7と図5の「韓国人との交流経験」の場合と同じように「経済」だけが統計的に有意ではなく、その他の分野は全て韓国人との交流のある方が関心度が高く、統計的にも有意であった。

韓国語学習経験の有無による関心度の差の最も大きい分野は「バラエティー番組」(有経験者：71.5点、無経験者：42.0点、その差：29.5点)であった。その次に差の大きい分野は、「K-POP」(28.2点)「ポップカルチャー」(25.0点)「韓国語」(22.3点)「韓国人」(23.4点)「ドラマ」(20.7点)「文学」(15.2点)「歴史」(14.8点)「映画」(14.3点)「政治」(13.7点)、「ファッション」(12.5点)「伝統文化」(12.4点)「社会問題」(11.0点)「食べ物」(10.0点)などの順である。この学習者要因としての韓国語学習経験の場合、他の要因による分析結果と比べ、経験の有無による関心度の差の大きい分野の順番やその数値が異なる点は特記すべきであろう。

一方、「普通」の50点を基準として韓国人との交流経験の有無によって関心ありと関心なしに分かれる分野は、「政治」(有：51.4点、無：37.7点)「歴史」(有：56.6点、無：41.8点)「社会問題」(有：58.0点、無：47.0点)「文学」(有：57.3点、無：42.1点)「映画」(有：58.0点、無：43.7点)「バラエティー番組」(有：71.5点、無：42.0点)であった。

4. 韓国の各分野に対する関心度の比較（2014年→2019年）

本章では、2014年の調査結果との比較を通じ韓国の各分野に対する関心度の変化を分析する。4.1節は全体結果を、4.2節は性別による結果を、4.3節は韓国関連経験の有無による結果を比較してみる。

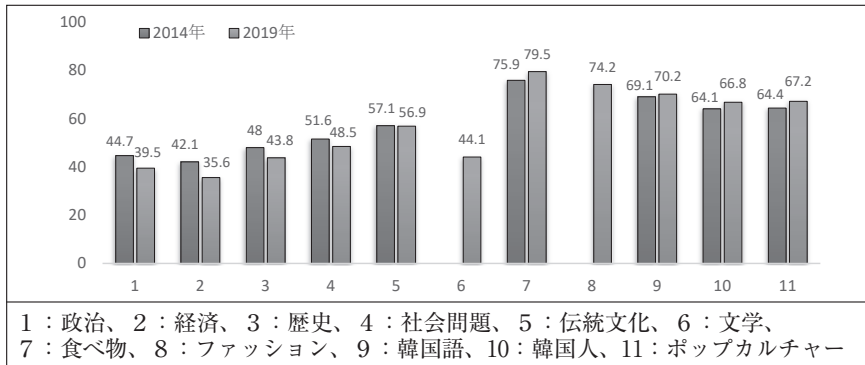
4.1 全体分野

表9. 各分野の関心度の全体結果の推移（2014年→2019年）

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	44.7	39.5	-5.2	0.001
2	経済	42.1	35.6	-6.5	0.000
3	歴史	48.0	43.8	-4.2	0.004
4	社会問題	51.6	48.5	-3.1	-
5	伝統文化	57.1	56.9	-0.2	0.595
6	文学	-	44.1	-	-
7	食べ物	75.9	79.5	+3.6	0.039
8	ファッション	-	74.2	-	-
9	韓国語	69.1	70.2	+1.1	0.626
10	韓国人	64.1	66.8	+2.7	0.275
11	ポップカルチャー	64.4	67.2	+2.8	0.246

（有意水準 $\alpha=0.05$ ）

図7. 各分野の関心度の全体結果の推移（2014年→2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

上記の表9と図7は、韓国の各分野に対する関心度の2014年と2019年の調査結果を比べたものである。6番の「文学」と8番の「ファッション」については、2014年の調査項目に含まれていないため、その結果を比較することはできなかった。そのため、表9と図7には2019年の調査結果だけを表示した。

t検定によると、統計的に有意な変化が見られた分野は、「政治」($p=0.001$)「経済」($p=0.000$)「歴史」($p=0.004$)「食べ物」($p=0.039$)であった。このうち、2014年より2019年の関心度が下がった分野は、「政治」($44.7 \rightarrow 39.5 : -5.2$)「経済」($42.1 \rightarrow 35.6 : -6.5$)「歴史」($48.0 \rightarrow 43.8 : -4.2$)であり、関心度が上がった分野は「食べ物」($75.9 \rightarrow 79.5 : +3.6$)である。つまり、日本の大学における非専攻韓国語学習者は、2014年より2019年には韓国の「食べ物」に対してはより興味を持てるようになったが、「政治」「経済」「歴史」に対してはより興味をなくしていることが分かった。

4.2 性別による関心度の比較

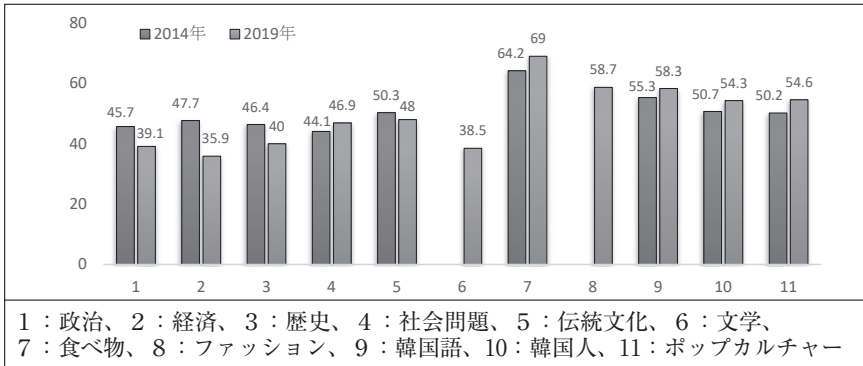
まず、男性受講者の各分野の関心度の比較結果から見よう。

表10. 男性受講者の各分野の関心度の比較 (2014年→2019年)

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	45.7	39.1	-6.6	0.006
2	経済	47.7	35.9	-11.8	0.000
3	歴史	46.4	40.0	-6.4	0.005
4	社会問題	44.1	46.9	-2.8	0.088
5	伝統文化	50.3	48.0	-2.3	0.693
6	文学	—	38.5	—	—
7	食べ物	64.2	69.0	+4.8	0.179
8	ファッション	—	58.7	—	—
9	韓国語	55.3	58.3	+3.0	0.506
10	韓国人	50.7	54.3	+3.6	0.538
11	ポップカルチャー	50.2	54.6	+4.4	0.290

(有意水準 $\alpha=0.05$)

図8. 男性受講者の各分野の関心度の比較（2014年→2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

上記の表10と図8は、男性受講者の韓国の各分野に対する関心度の2014年と2019年の調査結果を比べたものである。6番の「文学」と8番の「ファッション」については、同じく2019年の調査結果だけを表示する。

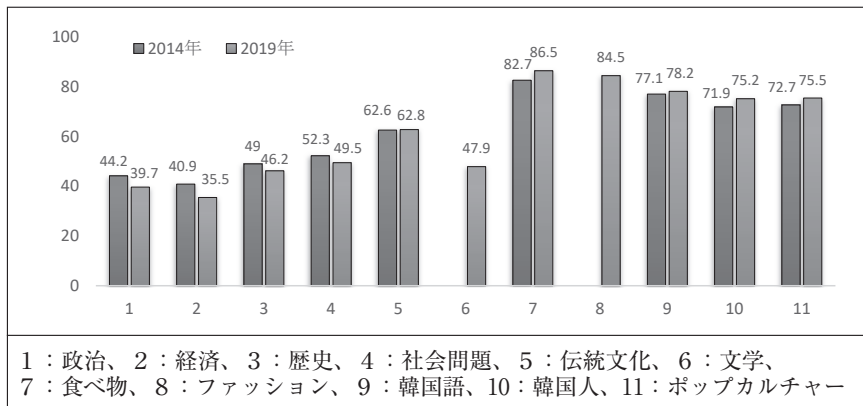
t検定によると、統計的に有意な差が見られた分野は、「政治」($p=0.006$)「経済」($p=0.000$)「歴史」($p=0.005$)であった。4.1節の全体結果の比較において関心度の統計的に有意な増加が見られた「食べ物」は、ここでは外れた。一方、これらの三つの分野に対しては、同じく関心度が下がっている。たとえば、「政治」は45.7点から39.1点に下がり-6.6点、「経済」は47.7点から35.9に下り-11.8点、「歴史」は46.4点から40.0点に下り-6.4点となった。つまり、2014年にもあまり興味を持っていなかったが、2019年には更に興味が持てなくなったと言えよう。次は、女性受講者の場合である。

表11. 女性受講者の関心度の比較 (2014年→2019年)

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	44.2	39.7	-4.5	0.034
2	経済	40.9	35.5	-5.4	0.005
3	歴史	49.0	46.2	-2.8	0.153
4	社会問題	52.3	49.5	-2.8	0.165
5	伝統文化	62.6	62.8	+0.2	0.960
6	文学	-	47.9	-	-
7	食べ物	82.7	86.5	+3.8	0.017
8	ファッション	-	84.5	-	-
9	韓国語	77.1	78.2	+1.1	0.511
10	韓国人	71.9	75.2	+3.3	0.131
11	ポップカルチャー	72.7	75.5	+2.8	0.230

(有意水準 $\alpha=0.05$)

図9. 女性受講者の各分野の関心度の比較 (2014年→2019年)



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

上記の表11と図9は、女性受講者の韓国の各分野に対する関心度の、2014年と2019年の調査結果を比較したものである。t検定によると、統計的に有意な変化が見られた分野は、「政治」($p=0.034$)、「経済」($p=0.005$)、「食べ物」

($p=0.017$) であった。このうち2014年より2019年の関心度が下がった分野は、「政治」(44.2→39.7: -4.5)「経済」(40.9→35.5: -5.4)であり、関心度が上がった分野は「食べ物」(82.7→86.5: +3.8)である。この結果を男性受講者の場合と比べると、統計的に有意な差が見られる分野から「歴史」が外れ、「食べ物」が入ったことになる。特に、「食べ物」に対しては2014年も82.7点の非常に高い関心度が見られたが、2019年には86.5点でさらに高くなっていることは特記しておきたい。

次に、韓国関連経験の有無による各分野の関心度の変化を考察してみよう。

4.3 韓国関連経験の有無による関心分野の比較

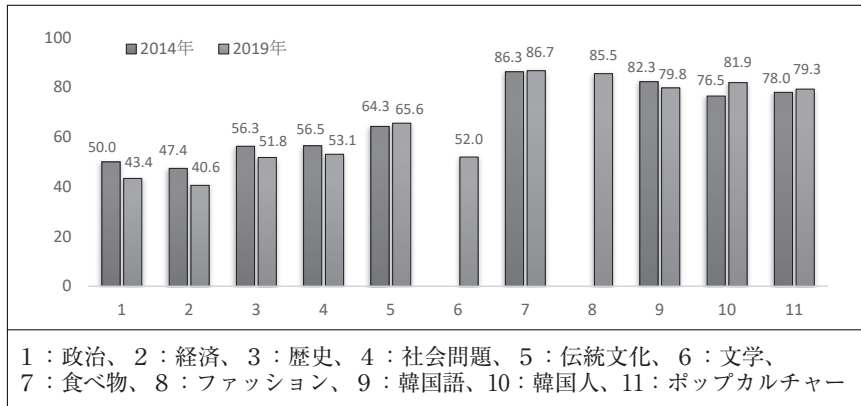
4.3.1 韓国訪問の経験

表12. 韓国訪問の有経験者の関心度の比較 (2014年→2019年)

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	50.0	43.4	-6.6	0.045
2	経済	47.4	40.6	-6.8	0.022
3	歴史	56.3	51.8	-4.5	0.102
4	社会問題	56.5	53.1	-3.4	0.234
5	伝統文化	64.3	65.6	+1.3	0.912
6	文学	-	52.0	-	-
7	食べ物	86.3	86.7	+0.4	0.737
8	ファッション	-	85.5	-	-
9	韓国語	82.3	79.8	-2.5	0.298
10	韓国人	76.5	81.9	+5.4	0.233
11	ポップカルチャー	78.0	79.3	-1.3	0.958

(有意水準 $\alpha=0.05$)

図10. 韓国訪問の有経験者の各分野の関心度の比較（2014年→2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

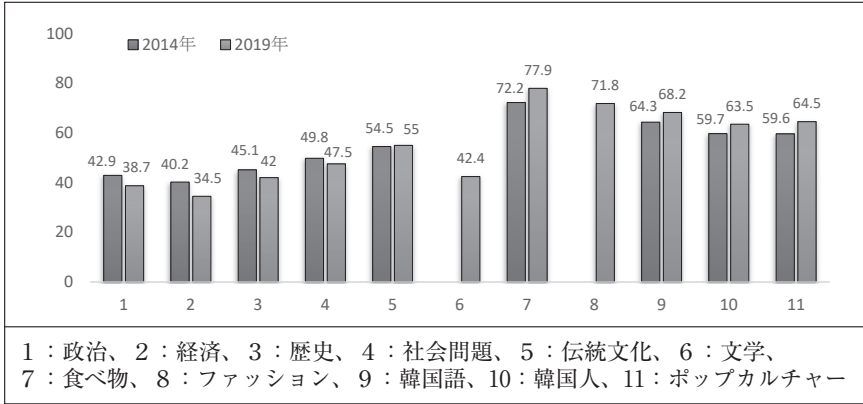
上記の表12と図10は、韓国訪問の有経験者の韓国の各分野に対する関心度の変化（2014→2019）を表したものである。t検定によると、統計的に有意な変化が見られた分野は、「政治」（50.0→43.4：-6.6、 $p=0.045$ ）「経済」（47.4→40.6：-6.8、 $p=0.022$ ）であり、どちらも2014年より2019年の関心度が下がった。次は、韓国訪問の無経験者の韓国の各分野に対する関心度である。

表13. 韓国訪問の無経験者の関心度の比較（2014年→2019年）

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	42.9	38.7	-4.2	0.017
2	経済	40.2	34.5	-5.7	0.001
3	歴史	45.1	42.0	-3.1	0.071
4	社会問題	49.8	47.5	-2.3	0.146
5	伝統文化	54.5	55.0	+0.5	0.931
6	文学	-	42.4	-	-
7	食べ物	72.2	77.9	+5.7	0.001
8	ファッション	-	71.8	-	-
9	韓国語	64.3	68.2	+3.9	0.047
10	韓国人	59.7	63.5	+3.8	0.086
11	ポップカルチャー	59.6	64.5	+4.9	0.023

（有意水準 $\alpha=0.05$ ）

図11. 韓国訪問の無経験者の各分野の関心度の比較（2014年→2019年）



(0点: 全く無関心、25点: やや無関心、50点: 普通、75点: やや関心あり、100点: とても関心あり)

上記の表13と図11は、韓国訪問の無経験者の韓国の各分野に対する関心度の変化(2014→2019)を表したものである。t検定によると、統計的に有意な差が見られた分野は、「政治」($p=0.017$)「経済」($p=0.001$)「食べ物」($p=0.001$)「韓国語」($p=0.047$)「ポップカルチャー」($p=0.023$)であり、相対的に他の場合より多い分野において統計的に有意な変化があった。この中で2014年より関心度が下がった分野は「政治」($42.9 \rightarrow 38.7 : -4.2$)と「経済」($40.2 \rightarrow 34.5 : -5.7$)であり、関心度が上がった分野は「食べ物」($72.2 \rightarrow 77.9 : +5.7$)「韓国語」($64.3 \rightarrow 68.2 : +3.9$)「ポップカルチャー」($59.6 \rightarrow 64.5 : +4.9$)であった。

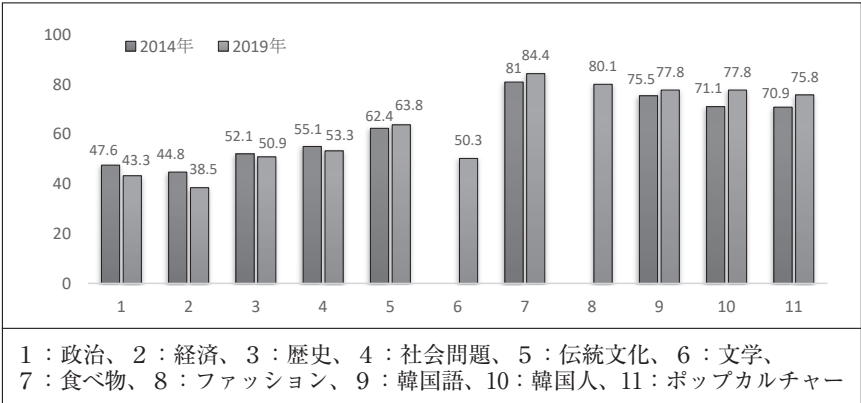
4.3.2 韓国人との交流の経験

表14. 韓国人との交流の有経験者の関心度の比較（2014年→2019年）

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	47.6	43.3	- 4.3	0.080
2	経済	44.8	38.5	- 6.3	0.008
3	歴史	52.1	50.9	- 1.2	0.526
4	社会問題	55.1	53.3	- 1.8	0.386
5	伝統文化	62.4	63.8	+ 1.4	0.803
6	文学	-	50.3	-	-
7	食べ物	81.0	84.4	+ 3.4	0.190
8	ファッション	-	80.1	-	-
9	韓国語	75.5	77.8	+ 2.3	0.373
10	韓国人	71.1	77.8	+ 6.7	0.021
11	ポップカルチャー	70.9	75.8	+ 4.9	0.115

（有意水準 $\alpha=0.05$ ）

図12. 韓国人との交流の有経験者の関心分野の変化（2014年→2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

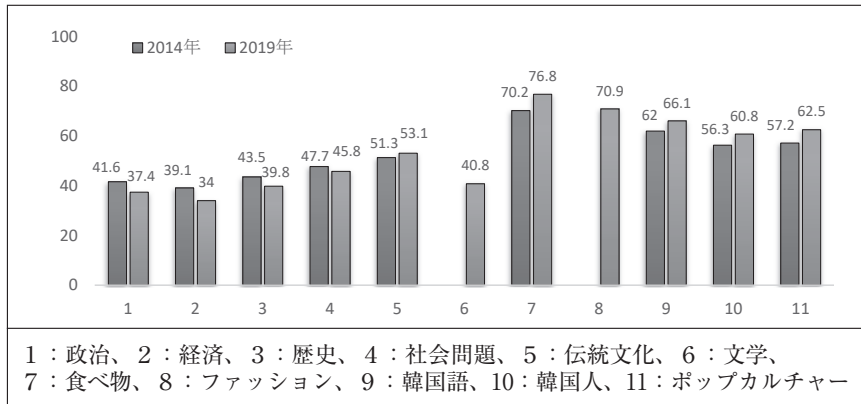
上記の表14と図12は、韓国人との交流の有経験者の韓国の各分野に対する関心度についての2014年と2019年の調査結果を比較したものである。t-検定によると、統計的に有意な変化を見せた分野は、「経済」($p=0.008$)と「韓国人」($p=0.021$)であった。「経済」についての関心度は、2014年44.8点から2019年は38.5点に下がり、 -6.3 を記録した。つまり、韓国人との交流の有経験者の場合は2014年にも韓国の「経済」についてはあまり興味を持っていなかったが、2019年にはさらに興味を失ったと言える。一方、「韓国人」に対する関心度は、2014年71.1点から2019年は77.8点に上がり、 $+6.7$ を記録した。すなわち、2014年にも興味を持っていたが、2019年にはさらに興味を持てるようになったのである。

表15. 韓国人との交流の有経験者の関心度の比較 (2014年→2019年)

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	41.6	37.4	-4.2	0.035
2	経済	39.1	34.0	-5.1	0.004
3	歴史	43.5	39.8	-3.7	0.039
4	社会問題	47.7	45.8	-1.9	0.270
5	伝統文化	51.3	53.1	$+1.8$	0.555
6	文学	—	40.8	—	—
7	食べ物	70.2	76.8	$+6.6$	0.003
8	ファッション	—	70.9	—	—
9	韓国語	62.0	66.1	$+4.1$	0.089
10	韓国人	56.3	60.8	$+4.5$	0.084
11	ポップカルチャー	57.2	62.5	$+5.3$	0.056

(有意水準 $\alpha=0.05$)

図13. 韓国人との交流の無経験者の関心度の比較（2014年→2019年）



（0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり）

上記の表15と図13は韓国人との交流の無経験者の韓国の各分野に対する関心度についての2014年と2019年の調査結果を比較したものである。t検定によると、統計的に有意な変化が見られた分野は、「政治」（ $p=0.035$ ）「経済」（ $p=0.004$ ）「歴史」（ $p=0.039$ ）「食べ物」（ $p=0.003$ ）であった。この中で2014年に比べ関心度が下がった分野は、「政治」（ $41.6 \rightarrow 37.4$ ： -4.2 ）「経済」（ $39.1 \rightarrow 34.0$ ： -5.1 ）「歴史」（ $43.5 \rightarrow 39.8$ ： -3.7 ）である。三つの分野とも2014年にもあまり興味を持っていなかったが、2019年にはさらに興味を持てないようになったと言える。一方、「食べ物」については、2014年より2019年に統計的に有意な関心度の増加が現れている。具体的には2014年は70.2点であったが、2019年は76.8点となり、 $+6.6$ の増加となった。韓国の「食べ物」に対しては、依然として高い関心を持っていると言える。

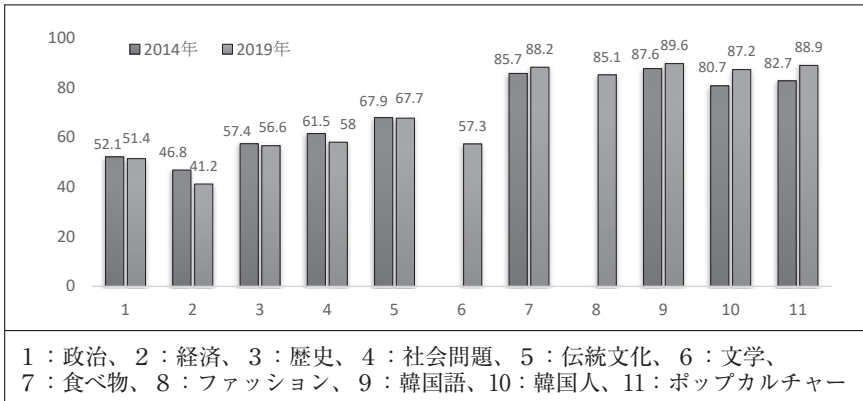
4.3.3 韓国語学習の経験

表16. 韓国語学習の有経験者の関心度の比較（2014年→2019年）

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	52.1	51.4	-0.7	0.888
2	経済	46.8	41.2	-5.6	0.194
3	歴史	57.4	56.6	-0.8	0.871
4	社会問題	61.5	58.0	-3.5	0.434
5	伝統文化	67.9	67.7	-0.2	0.721
6	文学	-	57.3	-	-
7	食べ物	85.7	88.2	+2.5	0.747
8	ファッション	-	85.1	-	-
9	韓国語	87.6	89.6	+2.0	0.546
10	韓国人	80.7	87.2	+6.5	0.217
11	ポップカルチャー	82.7	88.9	+6.2	0.253

(有意水準 $\alpha=0.05$)

図14. 韓国語学習の有経験者の関心度の比較（2014年→2019年）



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

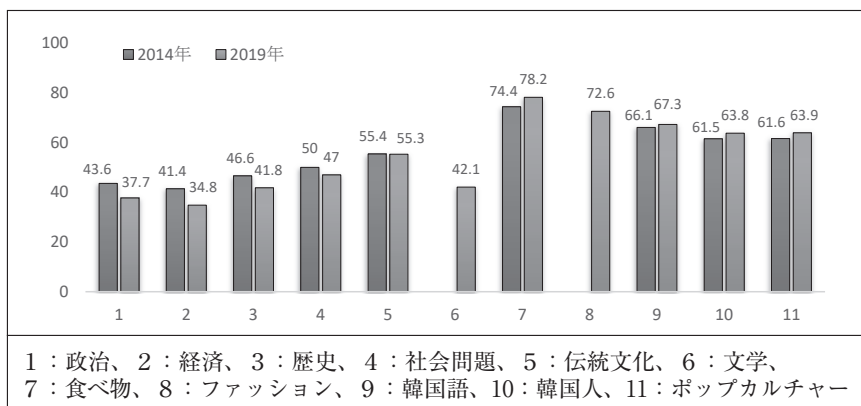
上記の表16と図14は、韓国語学習の有経験者の韓国の各分野に対する関心度についての2014年と2019年の調査結果の比較である。若干の数値の変化はあるが、t検定の結果によると、統計的に有意な変化はないことが分かった。次は、韓国語学習の無経験者の場合である。

表17. 韓国語学習の無経験者の関心度の比較（2014年→2019年）

	関心分野	2014年	2019年	増減値	有意確率
1	政治	43.6	37.7	-5.9	0.000
2	経済	41.4	34.8	-6.6	0.000
3	歴史	46.6	41.8	-4.8	0.002
4	社会問題	50.0	47.0	-3.0	0.042
5	伝統文化	55.4	55.3	-0.1	0.692
6	文学	—	42.1	—	—
7	食べ物	74.4	78.2	+3.8	0.033
8	ファッション	—	72.6	—	—
9	韓国語	66.1	67.3	+1.2	0.674
10	韓国人	61.5	63.8	+2.3	0.410
11	ポップカルチャー	61.6	63.9	+2.3	0.342

(有意水準 $\alpha = 0.05$)

図15. 韓国語学習の無経験者の関心度の比較（2014年→2019年）



(0点：全く無関心、25点：やや無関心、50点：普通、75点：やや関心あり、100点：とても関心あり)

上記の表17と図15は、韓国語学習の無経験者の韓国に対する関心度についての2014年と2019年の調査結果を比較したものである。t検定によると、統計的有意な変化が見られた分野は、「政治」(p=0.000)「経済」(p=0.000)「歴史」(p=0.002)「社会問題」(p=0.042)「食べ物」(p=0.033)であった。この中から「食べ物」(74.4→78.2: +3.8)だけは関心度が上がり、他の「政治」(43.6→37.7: -5.9)「経済」(41.4→34.8: -6.6)「歴史」(46.6→41.8: -4.8)「社会問題」(50.0→47.0: -3.0)の場合は、全て2014年に比べ関心度が下がった。

4.3.4 まとめ

表18. 学習者要因による統計的有意な差が見られる分野 (2014年と2019年の調査結果の比較)

関心分野	全体	性別		韓国訪問経験		韓国人との交流経験		韓国語学習経験	
		男性	女性	有り	無し	有り	無し	有り	無し
政治	↓	↓	↓	↓	↓	×	↓	×	↓
経済	↓	↓	↓	↓	↓	↓	↓	×	↓
歴史	↓	↓	×	×	×	×	↓	×	↓
社会問題	×	×	×	×	×	×	×	×	↓
伝統文化	×	×	×	×	×	×	×	×	×
食べ物	↑	×	↑	×	↑	×	↑	×	↑
韓国語	×	×	×	×	↑	×	×	×	×
韓国人	×	×	×	×	×	↑	×	×	×
ポップカルチャー	×	×	×	×	↑	×	×	×	×

(↓: 統計的に有意な減少、↑: 統計的に有意な増加、×: 統計的に有意ではない)

上記の表18は、2014年と2019年の調査結果の比較から学習者要因による統計的有意差のある分野をまとめたものである。表中の記号「↓」は2014年と2019年の調査結果の間に統計的に有意な減少があったことを表す。また、「↑」は両調査結果の間に統計的に有意な増加が認められること、「×」は統計的に有意ではないことを表す。

まず、全体を概観すると「政治」「経済」「歴史」「食べ物」について2014年と2019年の調査結果に統計的有意差があった。男女別に見ると、男性受講者の場合は「政治」「経済」「歴史」に、女性受講者の場合は「政治」「経済」「食べ

物」に統計的有意差があった。「歴史」は男性受講者の関心度の下落が全体の関心度の下落に影響し、「食べ物」は女性受講者の関心度の増加が全体の関心度の増加に影響したと言える。

韓国訪問に関しては、有経験者の場合は「政治」「経済」に、無経験者の場合は「政治」「経済」「食べ物」「韓国語」「ポップカルチャー」に統計的有意差があった。全体での「食べ物」に対する関心度の増加は、韓国訪問の無経験者の変化が影響を及ぼしたと言える。韓国人との交流経験に関しては、有経験者の場合は「経済」「韓国人」に、無経験者の場合は「政治」「経済」「歴史」「食べ物」に統計的有意差があった。全体で「政治」や「歴史」や「食べ物」に統計的有意差が出たのは韓国人との交流の無経験者の変化によるものである。最後に、韓国語学習経験に関しては、有経験者の場合は統計的有意差が見られるものが一つもなく、無経験者の場合にのみ「政治」「経済」「歴史」「社会問題」「食べ物」に統計的有意差があった。そのため、「政治」「経済」「歴史」「食べ物」における関心度の変化は韓国語学習の無経験者の変化による所が大きい。

5. おわりに

今回の研究を通じて、日本の大学における非専攻科目としての韓国語授業の受講者の、韓国の各分野に対する関心度について多様な面からの総合的な考察ができた。まず、2019年の現状についての性別や韓国関連経験の有無による分析と、2014年度の調査結果との比較を通じた5年間の関心度の増減を分析した。

今回の2019年度の調査からは、日本の大学における非専攻韓国語学習者は「食べ物」「ファッション」「K-POP」などの現代韓国の大衆文化に興味を持っていることが明らかになった。一方、「政治」「経済」「歴史」のような学術的・専門的分野については興味を持っていないことが分かった。この傾向は2014年度の調査結果とあまり変わっていない。男女別に見ると、男性受講者に比べ女性受講者の方が全体的な関心度が高く、様々な分野に興味を持っていることが分かった。韓国関連経験についても、有経験者の方が無経験者より全体的な関心度が高かった。

2014年度と2019年度の調査結果の比較からは、「政治」「経済」「歴史」については統計的に有意な関心度の減少が、「食べ物」については関心度の増加が見られた。男女別に見ると、女性受講者の関心度の変化が「歴史」の関心度の減少と「食べ物」の関心度の増加に影響していた。韓国関連経験については、「政治」への関心度の減少には韓国人との交流と韓国語学習の無経験者の変化

が、「経済」への関心度の減少には韓国語学習の無経験者の変化が、「歴史」への関心度の減少には男性受講者と韓国人との交流と韓国語学習の無経験者の変化が、「食べ物」への関心度の増加には女性受講者と韓国関連の三つの経験の無経験者の変化が影響を及ぼしていた。

以上のように、本研究の分析から明らかとなった学習者の全般的傾向やその変化傾向が、日本の大学における非専攻科目としての韓国語授業の目標や教授法などを今一度考え直す基礎資料として活用されることを期待したい。

【参考文献】

- 강영숙 (2016) 「일본 대학의 한국어 교육에 관한 연구」 『일어일문학연구』 89-2, 한국어일문학회, pp.355-377.
- 김수정 (2004) 「일본 대학에서의 한국어 학습자 요구 분석—규슈 대학을 중심으로」 『국어교육』 113, 한국어교육학회, pp.399-431.
- 박종후 (2014) 「일본 대학에서 비전공 한국어 교육의 현황 조사」 『언어와 문화』 10-3, 한국언어문화교육학회, pp.119-139.
- 朴鍾厚 (2019) 「日本の大学における非専攻韓国語学習者の関心分野に関する調査分析」 第6回朝鮮語教育学会・朝鮮語研究会合同大会.
- 박종후・오대환 (2014) 「일본 대학에서 한국어 교육 현황에 대한 조사 결과 보고 : 한국어 수업의 도달도 설정을 위한 기초 조사」, 한국언어문화교육학회 제9차 학술대회논문집, pp.115-126, 한국언어문화교육학회.
- 박종후・오대환 (2015a) 「일본 대학에서의 비전공 한국어 이수생의 학습 만족도 조사 방법론—학습자 변인을 중심으로」, 한국언어문화교육학회 제20차 춘계 전국학술대회, pp.110-115, 한국언어문화교육학회.
- 박종후・오대환 (2015b) 「일본 대학의 비전공 한국어 이수자들의 학습 동기를 중심으로 한 관련 항목 분석—한국 관련 경험을 변인으로 고려한 분석」 『언어와 문화』 11-2, 한국언어문화교육학회, pp.27-44.
- 박종후・정선영 (2019) 「일본 대학에서 비전공 한국어 과목 수강자의 수강동기에 대한 현황과 추이」 『외국어로서의 한국어교육』 55, pp.119-156.
- 朴珍希 (2016) 「日本における韓国語教育に関する研究—大学の韓国語学習者調査にみる現状と問題」 『岡山県立大学教育研究紀要』 1-1, pp.21-31, 岡山県立大学 大学教育開発センター.
- 오고시 나오키 (2003) 「일본 대학에 있어서의 한국어교육」 『일본연구』 18, 중앙대학교 일본어연구소, pp.151-162.
- 오고시 나오키 (2005) 「도쿄 대학의 한국어교육 및 연구」 『한국어교육』 16-2, 국제한국어교육학회, pp.337-349.
- 이순연 (2018) 「일본인 한국어 초급 학습자의 한국어에 대한 인식」 『일본문화연구』 67, pp.257-275.

【付録】

アンケート

このアンケート調査は、日本の大学における韓国語教育の現状を把握するための研究の一環として行われるものです。このアンケートの結果は本研究の目的以外に用いられることは一切ありませんので、ご安心ください。何卒、ご協力お願い申し上げます。

(研究責任者：獨協大学国際教養学部 朴鍾厚 parkjonghoo@naver.com)

【基本情報】

- ・性別：(男性 ・ 女性)
- ・大学の所在地：_____ 道・都・府・県
- ・韓国に行ったことがありますか？：(ある ・ ない)
- ・韓国人との交流経験：(ある ・ ない)
- ・入学前の韓国語の学習経験：(ある ・ ない)

1. 韓国語の科目を受講する前の韓国に対する関心度はどれくらいでしたか？

- ①全く無関心 ②やや無関心 ③普通 ④若干関心 ⑤とても関心

2. 韓国語の科目を受講しようと考えた理由は何ですか？各項目に答えてください。

		全くそう ではない	そうでは ない	普通	そうである	とてもそう である
1	必修科目だから	1	2	3	4	5
2	時間割表上の対案がなくて	1	2	3	4	5
3	単位が取りやすいと聞いたから	1	2	3	4	5
4	他に取りたい外国語科目がなくて	1	2	3	4	5
5	周りからの勧誘・勧め	1	2	3	4	5
6	就職活動に役に立つと思って	1	2	3	4	5
7	韓国に留学に行きたくて	1	2	3	4	5
8	韓国旅行で役に立つと思って	1	2	3	4	5

9	英語以外の世界の多様な言語が学びたくて	1	2	3	4	5
10	隣国の言語だから	1	2	3	4	5
11	韓国に興味があって	1	2	3	4	5
12	韓国人と韓国語で会話がしたくて	1	2	3	4	5
13	韓国語は日本語と似ていてすぐ上達できると思って	1	2	3	4	5
14	その他 (記入してください)					

3. 韓国への関心分野を問う質問です。各分野についての関心度を答えてください。

		全く無関心	やや無関心	普通	やや関心	とても関心
1	政治	1	2	3	4	5
2	経済	1	2	3	4	5
3	歴史	1	2	3	4	5
4	社会問題	1	2	3	4	5
5	伝統文化	1	2	3	4	5
6	文学	1	2	3	4	5
7	食べ物	1	2	3	4	5
8	ファッション	1	2	3	4	5
9	韓国語	1	2	3	4	5
10	韓国人	1	2	3	4	5
	ポップカルチャー	1	2	3	4	5
	韓国のポップカルチャーの中で各ジャンル別の関心度はどれくらいですか？					
	①K-POP	1	2	3	4	5
11	②ドラマ	1	2	3	4	5
	③映画	1	2	3	4	5
	④バラエティー番組	1	2	3	4	5
	⑤その他（記述）					

4. 韓国語の授業を通して上達させたい言語能力は何ですか？各項目に答えてください。

		全くそう ではない	そうでは ない	普通	そうである	とてもそう である
1	韓国人と韓国語で会話 をする能力	1	2	3	4	5
2	韓国語を聞いて理解す る能力	1	2	3	4	5
3	韓国語の文を読んで理 解する能力	1	2	3	4	5
4	自分の考えを韓国語で 書く能力	1	2	3	4	5
5	韓国語の語彙能力の上達	1	2	3	4	5
6	韓国語の文法に関する 知識の向上	1	2	3	4	5
7	韓国語の発音	1	2	3	4	5

ご協力ありがとうございました。